1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0270101686		
法人名	株式会社のじり苑		
事業所名	グループホームのじり苑		
所在地	〒030-0122　青森県青森市野尻字今田58番地1		
自己評価作成日	平成29年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会
所在地	〒030-0822　青森県青森市中央3丁目20番30号　県民福祉プラザ3階
訪問調査日	平成29年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な空間の中で入居者様一人ひとりが自宅にいるように職員と家族のように触れ合える。
野尻町会の回覧版を確認しながら、地域での一連の流れを確認しながら合同避難訓練へ参加と横内市民センターにて開催される行事へ参加している。又、近隣に短大、幼稚園がある事で地域交流を行う事が出来ている。更に、近隣の施設の行事へお誘いを受け交流を深めている。外出も個々の要望に合わせて出かけるなど、個人に合わせた対応や支援が行われている。個別の支援を丁寧に行っていることが入居者一人ひとりの表情や行動、職員の姿勢に現れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域住民との関わりが多く信頼関係が出来ており、入居者が日々の暮らしの中で希望に沿った支援を受けられている。また、排泄パターン等の日常生活動作の詳細なデータが管理されており日々の暮らしを職員全員が把握し家族、本人との相談の中で次の段階へのケアの実践が出来ている。そして、希望に沿った外出支援（温泉、買物等）を通し、その人らしい暮らしができる様に職員全員が笑顔で丁寧に支援されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念、運営理念を掲げ毎朝の申し送り、会議の前に唱和を行う事で職員へ浸透させ実践につなげている。	ユニットにおいて玄関、ホールに理念を掲げており、朝礼、申し送り、会議の前に唱和し職員へ浸透させ実践へ繋げている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等を通じて他事業所、地域の方と交流できるように心がけている。	町内会に加入しており地域の方々の協力を得て入居者の方々が祭り等の地域の行事へ参加している。また年間行事を通して他事業所との交流を図り、地域の方々も把握し協力して頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	東邦運輸、地域住民へ協力をお願いしている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、ご家族様、南包括支援センター、民生委員へ参加して頂き行事や事故報告書、情報交換を行い出された意見などはサービス向上に活かしている。	入居者、家族、民生委員、地域包括支援センターが参加し2ヶ月に1度実施されている。運営状況を報告しヒヤリハット、事故報告を公表し、地域より行事等の情報を得る事により情報共有が出来ており内容を職員へ周知させサービス向上へ繋げている。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて報告、相談等を行い運営推進会議録を提出し情報公開に努め協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者のもとへ出向き報告、相談をしている。必要に応じ随時問い合わせ出来る関係作りを構築しており可能な限り運営推進会議の出席を要請している。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の業務の中で身体拘束につながらないかを意識し研修を行い取り組んでいる。転倒リスクが高くやむを得ず抑制帯を使用されている(担当医よりし指示があり)入居者様は本人、ご家族様と施設にて身体拘束の同意書を交わしている。夜間は防犯の為に施錠している。	リスクが高く担当医、家族からの了解を経て同意書の下にやむを得ず身体拘束を行っている。玄関の施錠はせず地域の協力も有り入居者が自由に外へ出る環境が構築されており介護予防の為にアクティビティを積極的に実施している。	職員教育を通し、身体拘束の知識を多く理解し浸透させ、入居者との関わりを多くする事により拘束する時間を短くしていける様に記録として残し拘束をしないケアに繋げていける様に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	両ユニット、共有スペースへマニュアルをファイリングしており、ユニット会議内の研修にて学ぶ場を設けて虐待につながるケアをしていないかについて確認しながら防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	両ユニット、共有スペースへマニュアルをファイリングしており、ユニット会議内の研修にて学ぶ場を設けて制度を必要とする方には各関係者と連携を図り支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の方に納得してもらえるまで十分な説明を行っており不安なことなどの確認を行い、いつでも相談できる体制であることを伝えている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書と一緒に「お客様の声」という用紙を送付し、ご家族様の意見、要望を確認したり運営推進会議へ参加頂き直接意見を聞ける場を設け運営へ反映させる努力をしている。	意見箱を設置しており、また運営推進会議への家族の出席が多い為、会議や面会の都度意見を頂いている。毎月、意見を聞ける用紙を送付して意見を確認できる様にしそれらを運営に反映させている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を行い職員の意見や提案を話し合い運営へ反映させている。	毎月の会議、日々の申し送りの場で職員全員と情報共有できる場を設け状況確認している。また、必要に応じ個別に面談を実施し、多くの意見や提案を聞く機会を設け運営へ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談の機会を設けたりメール、電話等で不安、要望を確認している。職員の仕事の評価の成果を評価基準を用いて正確に評価するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のケアへの取り組みを確認し不足点について指導し育てる取り組みをしている。法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し集まりへ参加したり近隣の事業所の行事へ参加したり交流を図りサービスの刺激を受け現場にいかせるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学と本人様への面会を行い、アセスメントを必ず行い要望や不安について十分に聞き安心出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来苑された際は、必ず近況報告し相談出来る関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントを踏まえ必要としている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物、調理、軽作業、レクリエーション活動を通じて家族の様な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のご様子や身体状況、生活状況を報告。写真を張り付けご家族様にも安心頂ける様にしている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が今まで大切にしてきた、人、場所へ出かけられるように予定を組んで出かけている。	季節に応じ四季折々の場所へ出かけ、入居者個人の馴染みの場所や温泉、行きつけの美容室など希望の場所へ行っており関係が途切れない支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がコミュニケーションが図れるように職員が介入している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や介護支援専門員の紹介などを行い情報交換や相談窓口となって不安なく退去できるように努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に入居者様の視野から見て考えや、言動、行動、表情を見て、職員同士で話し合い情報共有や意見交換をしている。出来る事はケアプランへ反映させ職員へ周知し一緒に取り組む様に心掛けている。	以前の暮らしをベースに入居者の声を傾聴し、その旨を家族へ伝え確認して職員間で情報共有する事により、その人らしい暮らしを継続する様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを踏まえながら、ご家族様より状況を伺いながら、毎日の状態や発言を観察し全職員で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族様より聞き取りした生活歴を参考に一人ひとりの現状の把握に努め、軽作業やADLの向上に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議や日々の記録、更新時期には本人様も出来る限り出席をお願いし担当者会議を開催しながら現状に合ったプランの取り組みをしている。	会議やカンファレスに沿っており、可能な限り利用者にも参加してもらいアセスメント、モニタリングのプロセスを通し職員間で周知する事により現状に沿った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りを活用し情報共有し日々見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望や心身の状態に合わせ、職員目線にならないよう対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源への取り組みはしていないが安全、安心な暮らしが出来る様に努めている。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携している医療機関とは、常時連絡を取り合い適切な対応をするように支援し、外部の病院を受診されている方へも同様の対応をしている。相談や不安事がある際にも連絡を密にし関係を築いている。	本人、家族の要望がある場合、以前より利用していた医療機関を受けられる様に支援しており、連携している医療機関とは常時問い合わせて助言や対応をしてもらえる関係を築き適切な医療を受けられる様に支援されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、連携病院との連絡、相談を行い適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日々、報告、連絡、相談を行い病院関係者と関係づくりをしている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	十分に説明及び話し合いを行い、医療機関、職員ともに共有している。しかし地域の関係者との協力への取り組みについては行っていない。	入居者の日常生活動作のデータを日々詳細に記録しており、それがデータとして毎月、通年反映できるプログラムを利用する事により職員間で共有し医療機関、家族への報告を早い段階で進め今後の方針を決め次の段階へ繋げる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は、直ぐに対応出来るように連絡網を貼っている。定期的な訓練は行えておらず指示のもとに対応している。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、避難方法、通報方法を確認し消火器の取り扱いなど入居者様も一緒に参加し把握している。地域との協力体制の築きの為、横内地区の避難訓練へ参加し施設への協力をお願いしている。	年2回の消防立ち会いの防災訓練を実施している。また非常食、設備を常備されている。また地域の防災訓練にも入居者と共に参加し地域住民との協力体制を構築する事により災害発生時の迅速な対応に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が周知、徹底している。	入居者情報に関して書庫等に鍵を掛け、プログラム管理も厳重にされている。居室は常時扉を締め排泄介助の場面等でプライバシーを損ねない対応をしている。また職員教育として人権擁護の研修を実施し人格を尊重する対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援を促しながら、自ら選択出来るような質問や自己決定出来るように傾聴し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り希望にそえるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るように整容を支援している。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立や、嫌いな食べ物を把握し代替食を提供し食事を楽しんでもらえるように対応している。	入居者と共に食事の準備を行い、隣接されている畑より一緒に収穫し旬の食材を取り入れた調理を行っている。また、バーベキューを行うなど、その時々のイベントに沿って地域の方々も一緒に食事が楽しめる環境に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量と水分量は常に記録し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後に口腔ケアを促すが無理させず夕食後には必ず行って頂くように支援している。介助が必要な方の口腔内の観察は必ず行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限り自立に向けた支援を行っている。	排泄状況を個別にパソコンへ記録し、詳細なデータを管理し周知する事によりパターンを把握し、乳製品等の食材で自然に排泄できる取り組みを実施し、出来る限り自立へ向けた支援へ努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	水分摂取の声がけ乳製品の摂取等を取り組みながら便秘予防へ取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	無理強いはせず入浴を実施し希望があれば、いつでも入浴出来るように支援している。	入居者本人へ合わせた入浴を行っており、希望があれば近隣の温泉へ職員付き添いで入浴されている。また、足浴などを通しタイミングに合わせて入浴できる様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握しながら、いつでも休んで頂ける環境にし一人ひとりの安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を職員全員で把握し服薬綴りを確認し変更時は職員間で口答での申し送りと、申し送りノートへ記載し確認の徹底をしている。また、変化があつた場合には担当医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し役割などを交えて軽作業へ取り組んで頂き気分転換を図りながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内の買い物、ドライブ等の外出機会を出来る限り多く設け支援している。普段行けない場所へは希望を伺いながら計画しボランティアの方の協力を得て施設全体で外出支援している。	入居者のその日の状況や希望に沿って可能な限り地域の公共機関への買物、祭りなどのイベントへ外出されている。祭りへは地域の方々に協力して頂き参加されており、希望に沿った外出支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほぼ所持はさせていない。一緒に買い物		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも対応出来るよう伝え、訴え時には快く対応している。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは写真、飾りつけ等を工夫と生活感、季節感を感じて頂けるように工夫し温度、湿度管理を行っている。	誕生会、季節などのイベントに合わせた装飾を行っている。また温度、湿度管理を行い入居者にとって過ごしやすい様に配慮し音楽を流す事によりリラックスし安心して暮らせる環境に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子を置き、いつでも誰でも自由に利用出来るように対応している。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良く過ごせるように、寝具交換を定期的に行い入り口、窓等の光や出入り口を配慮しベッドの置き場所を工夫し対応している。	入居者の好みに合わせた環境造りの為に以前から利用されていた物、思い出の写真、化粧品等を設置する事により安心し、落ち着いて過ごせる環境に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危機管理を持ち安全面には十分配慮している。		